

平成2年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

1. 「オアシス」 「船の科学」1990-8 (Vol.43, No.8) より採取。

・699総トン型 双胴自動車航走船「オアシス」 総トン数 697T 車両搭載数 トラック 14台、乗用車 8台、旅客定員数 599名、航海速力 13.65 kn、 航路 東京湾 - 川崎 - 木更津
主機関 1,200PS×2 プロペラ 4翼2軸。

・船主 : 日本カーフェリー(株) ・建造 : NKK鶴見製作所 平成2年4月16日 竣工

・1)は本船全景、2)は操舵室、壁の全周に角窓を配している。室内中央にメイン操縦台、室内右舷に主機・発電機コンソールを配置している。機関室内監視用のカラーモニターを設けている。

1) W65-01 オアシス 本船全景



2) W65-02 オアシス 操舵室



2. 「筑波山丸」(TSUKUBASAN MARU) 「船の科学」1990-9 (Vol.43, No.9) より採取。

・260型 VLCC 「筑波山丸」 DWT 259,998t, VLCC としては初めての日本籍混乗船。

船橋内に中央制御室を設け、主機関、補機の集中制御・監視を行っている。本船の特徴は、ハイテンを使用して軽量化を図っている、低燃費主機の採用、軸発採用、SMP(Radio Holland社製、Ship Performance Monitor)の採用(運転中の船の全体効率を連続的にオンライン・モニターするもの)など。

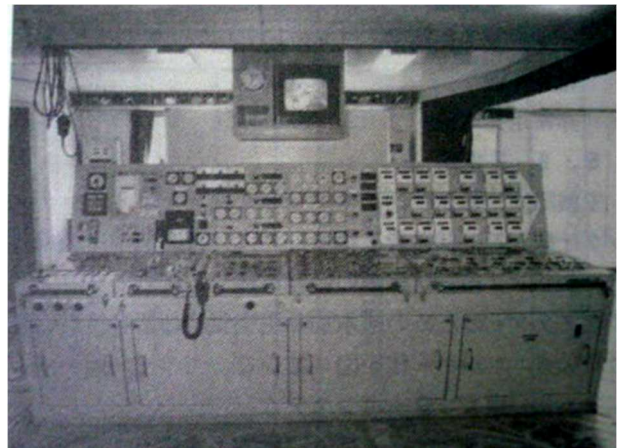
3) W65-03 筑波山丸 本船全景



4) W65-04 筑波山丸 中央制御室



5) W65-05 筑波山丸 遠隔監視制御装置



- ・船主 : 大阪商船三井船舶(株) 国際エネルギー輸送(株)
- ・建造 : 佐世保重工業(株) 佐世保造船所 平成2年5月15日 竣工

- ・3)は本船全景、
- ・4)は中央制御室、主機関の制御、発電装置、蒸気発生装置および関連補機の制御・監視を行う。
- ・5)は遠隔監視制御装置、貨物油ポンプ、バラストポンプの発停、各種切換弁の遠隔制御を中央監視区画より行う。

3. 「ヴォイジャ」(VOYGER) 「船の科学」1990-11 (Vol.43, No.11) より採取。

- ・世界初、大型軽合金製 200 人乗り、揺れない船「ヴォイジャ」 総トン数 132 T、全長 26.5m、巾 9.0m 深さ 2.6m、 定員 (1.5hr 未満) 200 名、(6.0hr 未満) 81 名、航海速力 18.85 kn
航路 九州八幡 - 小倉、下関

6) W65-06 ヴォイジャ 本船全景



ハイスティブル・キャビン艇 (HSCC) は、船全体の動揺を軽減するのではなく客室の縦揺れ、横揺れを小さくして乗り心地の改善を図るもの。

- ・船主 : 西日本海運(株)
- ・建造 : 三菱重工業(株) 下関造船所
平成2年7月11日 竣工
- ・6)は本船全景、7)は操舵室、8)は HSCC 操作盤。

7) W65-07 ヴォイジャ 操舵室



8) W65-08 ヴォイジャ HSCC 操作盤



4. 「AROSIA」(アロシア) 「船の科学」1990-11 (Vol.43, No.11) より採取。

- ・4,000 TEU 型コンテナ運搬船「AROSIA」(ホールド11列、パナマックス型) DWT 55,971 t
コンテナ積載数 4,000 個(内レフコン 889 個) 主機関は世界最大級の低燃費型(55,900PS, 104rpm)採用、オーバハング型軸発電機(3,500 kW)、排ガスにより駆動されるパワータービン発電機(1,300 kW)採用、ディーゼル発電機は 2,000 kW × 3。
パワータービン発電機に余剰電力が生じた場合には、軸発電機を電動機として運転する。

9) W65-09 AROSIA 本船全景



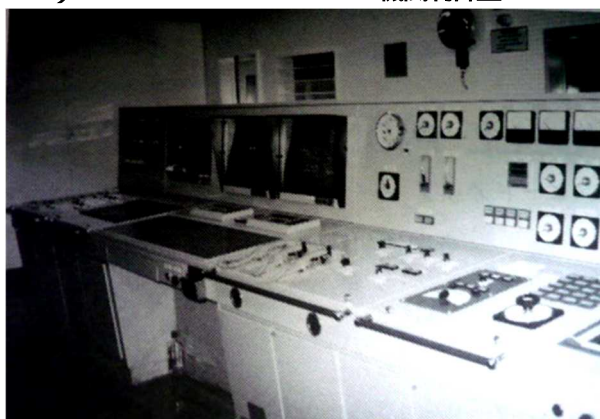
- ・船主 : The East Asiatic Co., Ltd. A/S
(Denmark)
- ・建造 : 三井造船(株) 千葉造船工場
平成2年7月23日 竣工

- ・ 9) は本船全景、 10) は操舵室、 11) は機関制御室、 CRT Display が 2 台見える。

10) W65-10 AROSIA 操舵室



11) W65-11 AROSIA 機関制御室



5. 「CRYSTAL HARMONY」 「船の科学」 1990-11 (Vol.43, No.11) より採取。

- ・ 豪華クルーズ客船「CRYSTAL HARMONY」 総トン数 49,400 T, 電気推進 ディーゼル機関×4 出力(連続最大) 8,640 kW(400 rpm) ×4, 発電機(主) 8,200 kW×4 (補) 3,000 kW、プロペラ 4翼 2軸 CPP
乗組員 500 名 旅客 960 名

12) W65-12 CRYSTAL HARMONY 本船全景



- ・ 船主 : Crystal Ship(Bahama) Ltd.
(日本郵船 100% 出資会社)
- ・ 建造 : 三菱重工業(株)長崎造船所
平成2年6月21日 竣工

- ・ 12) は本船全景。
この年の代表的な客船である。なお本船は「Ship of the Year '90」に選ばれた。

6. 「AMER HIMALAYA」 「船の科学」 1990-12 (Vol.43, No.12) より採取。

- ・ 49万 CFT 型冷凍運搬船「AMER HIMALAYA」 DWT 11,595 t
主としてヨーロッパを中心に南米、豪州からの青果物の輸送に従事。
- ・ 船主 : Darvel Shipping Company Ltd. (Kypros) ・ 建造 : (株)金指造船所 豊橋工場 平成2年4月25日竣工
- ・ 13) は本船全景、 14) は冷凍装置制御盤で、冷凍装置および倉内温度の監視・制御を行う。

13) W65-13 AMER HIMALAYA 本船全景



14) W65-14 同左 冷凍装置制御盤



7. 「パシフィック ハーモニー」(PASIFIC HARMONY) 「船の科学」1991-1 (VOL.44, No.1) より採取

- ・75,000 m³ 型 LPG 運搬船 独立タンク方式「パシフィック ハーモニー」 DWT 49,701 t, LPG タンク容量 75,208 m³、主機関は超ロングストローク・2サイクル ディーゼル機関を装備、低質高粘度燃料油が使用可能。
- ・船主 : くみあい船舶(株) ・建造 : 川崎重工業(株) 坂出工場 平成2年7月4日 竣工
- ・15) は本船全景、16) は集中制御室、これは居住区に設けられている。

15) W65-15 パシフィック ハーモニー 本船全景



16) W65-16 同左 集中制御室

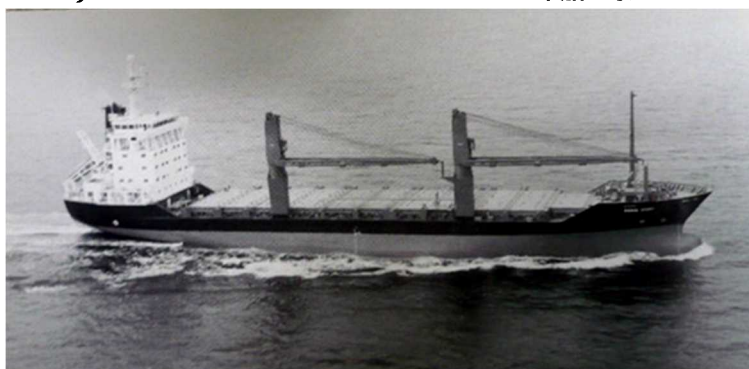


8. 「HIGHLAND CHIEF」 「船の科学」1991-1 (Vol.44, No.1) より採取。

- ・香港向シリーズ コンテナ船「HIGHLAND CHIEF」 DWT 10,775 t、コンテナ積載数 646 個(レフコン 180 個) オーストラリア~パプアニューギニア間の物資輸送に従事。荷役設備のない港湾にも就航できるよう 36 t SWL Deck Crane を2基右舷側に 17) W65-17 HIGHLAND CHIEF 本船全景 に装備している。

- ・船主 : The China Navigation Co., Ltd. (Hong Kong)
- ・建造 : (株) 三保造船所 平成2年3月10日 竣工

- ・17) は本船全景、18) は操舵室、19) は Cargo Control Room, 20) は機関監視室、21) は無線室、GMDSS(Global Maritime Distress and Safety System) を先取りした仕様になっている。(1992-2 より無線装置 GMDSS の導入が始まる。) 操舵室左舷船尾に一段低いスペースを設け、開放型の無線室としている。



18) W65-18 HIGHLAND CHIEF 操舵室



19) W65-19 同左 Cargo Control Room



20) W65-20 HIGHLAND CHIEF 機関監視室



21) W65-21 HIGHLAND CHIEF 無線室



9.「明洋」 「船の科学」1991-2 (Vol.44, No.2) より採取。

- ・新鋭測量船 水深 10,000 m の海底地形を測量「明洋」 総トン数 621 T 乗組員 25 名 その他 13 名。
主機 1,100 PS ×2 2軸2舵 CPP、パワースラスタ付き、船速 14.5 kn
主要観測機器は、複合測位装置(ロランC × 2、GPS × 2)、シービーム、浅海音響測深機、多層音波流速計など。
- ・船主 : 運輸省海上保安庁 ・建造 : 川崎重工業(株)神戸工場 平成2年10月24日 竣工

- ・22) は本船全景、23) は操舵室、24) 25) は観測室。

22) W65-22 明洋 本船全景



23) W65-23 明洋 操舵室



24) W65-24 明洋 観測室 左舷を見る



25) W65-25 明洋 観測室 後方を見る



10.「おーろら」 「船の科学」1991-2 (Vol.44, No.2) より採取。

- ・我が国初の 499 総トン型 砕氷型流氷観光船「おーろら」 総トン数 491 T、乗組員 10 名、旅客 420 名
主機 3,000 PS、 知床 / 網走流氷観光航路。

- ・船主 : 道東観光開発(株) ・建造 : NKK 檜崎造船(株) 平成2年11月30日 竣工
- ・26)は本船全景、27)は操舵室、船の全幅よりもさらに張り出した形状となっており、前方のみならず、後方の視界も良くなっている。

26)W65-26 おーろら 本船全景



27)W65-27 おーろら 操舵室



11.「EXPRESS」 「船の科学」1991-5 (Vol.44, No.5)より採取。

- ・17,000 DWT セルフ・アンローダ付 撒積貨物船「EXPRESS」 DWT 17,309 t
豪州近代化仕様 MIDC(Maritime Industry Department Committee)を適用、省エネ船型 TESS(Tsuneishi Economical Standard Ship)を採用。豪州とニュージーランドの航路に就航。1992年2月からの SOLAS の発効に先駆けて GMDSS(Global Maritime Distress and Safety System:無線装置)を導入している。
- ・船主 : Howard Smith Industries Pty Ltd.(Australia) ・建造 : 常石造船(株) 平成2年10月19日竣工
- ・28)は本船全景、29)は操舵室、視界の広い操舵室になっている。操舵室にはCRT Graphic 表示、キーボードからなる集中監視・制御装置が装備され、無線スペースも操舵室内に設けられている。

28)W65-28 EXPRESS 本船全景



29)W65-29 EXPRESS 操舵室



[メモ]

- 1) この年も珍しい船が多数建造されている。
双胴自動車航走船「オアシス」、VLCC としては初めての日本籍混乗船「筑波山丸」、大型軽合金製200人乗りの揺れない船「ヴォイジャ」、豪華クルーズ客船「CRYSTAL HARMONY」、水深10000mの海底地形を測量する測量船「明洋」、砕氷型流氷観光船「おーろら」など。
- 2) 省エネ対策として、排ガスタービン発電、軸発電機などが用いられるようになったが、さらに電力に余剰が生じた場合には、軸発電機を電動機として使用する方式が現れた。
- 3) 無線装置として、GMDSS (Global Maritime Distress and Safety System) の導入が始まった。
- 4) 監視システムの表示方式として2CRT方式が前年あたりから用いられたが、それが一般的な方式になってきた。